

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	CMI3005201	授業科目名	国際社会論			開講曜日・講時	火曜 2 限			
担当教員名	澤田 昌人		授業区分		開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>				ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>				
サブタイトル										
国際社会では今、何が起ころうとしているのだろうか。目を開いてまっすぐ見つめよう。										
授業の目的・到達目標										
(1) 現代の世界情勢に興味を持ち、一般的な知識を得る。 (2) それを踏まえて、これからの世界はどうなっていくのか、どうあるべきかを考えることができる。 (3) 現代世界のニュースを他の受講生に説明し、論評することができる。										
授業の概要										
20 世紀は戦争の世紀でした。二回の世界大戦、その後の「冷戦」、「冷戦」後の民族紛争、と世界は大きく変化してきました。グローバル化が一段と進んだ 21 世紀、世界はさらに大きな地殻変動に直面しているように見えます。各地域で起きつつある、あるいはすでに進行中の出来事を紹介しながら、これからの世界のあり方について考えていきたいと思います。 また、毎回順番に受講生が関心を持った国際ニュースを紹介し解説し、他の受講生との間で質疑応答を行います。20 世紀は戦争の世紀でした。二回の世界大戦、その後の「冷戦」、「冷戦」後の民族紛争、と世界は大きく変化してきました。グローバル化が一段と進んだ 21 世紀、世界はさらに大きな地殻変動に直面しているように見えます。各地域で起きつつある、あるいはすでに進行中の出来事を紹介しながら、これからの世界のあり方について考えていきたいと思います。 また、毎回順番に受講生が関心を持った国際ニュースを紹介し解説し、他の受講生との間で質疑応答を行います。										
授業計画										
1 インTRODクシヨ 2 冷戦とその終結、グローバル化 3 グローバル化とマネー…タックスヘイブンの問題 4 国連の役割…国連の仕組み 5 国連の役割…平和維持活動 6 軍事力の理解…東アジアにおける軍事費の比較 7 軍事力の理解…核兵器とその配備、中間試験の説明(各自のこれまでの持ち点) 8 中間試験 9 中間試験の振り返り(各自の得点)、変化する世界…人口増加と人口減少 10 変化する世界…アメリカと中国のグローバルな対立 11 変化する世界…激動が続く中近東 12 変化する世界…インドの勃興 13 まとめと期末試験の説明(各自のこれまでの持ち点) 14 期末試験 15 期末試験の振り返りと再チャレンジ										
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)										
毎回配布されるレジメをもとに復習する必要があります。また、下記の参考文献を読んでおくとう理解が深まるでしょう。										
評価方法・評価基準										
履修条件・留意点及び受講生に対する要望										
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)										
なし。レジメをほぼ毎回配布します。										
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)										

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

『ビジネスパーソンのための世界情勢を読み解く 10 の視点ーベルリンの壁からメキシコの壁へ』森千春著、ディスカヴァー・トゥエンティワン

参考 WEB サイト(サイト名・URL)

レジメを置いておくサイトは、授業中に紹介します。

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	CMI3003201	授業科目名	グローバル・スタディーズ			開講曜日・講時	水曜 1 限		
担当教員名	細川 弘明	授業区分		開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
世界の動きはあなたの人生をどう左右するか									
授業の目的・到達目標									
受講者が次の 3 つのちからを伸ばすこと: (1) 自分自身の日々の生活と世界(国際社会)とのつながりを具体的に理解し、それを友達に説明することができる。 (2) さまざまなニュースの背景を「グローバル化」の文脈で読み解くことができる。 (3) 「日本の常識は世界の非常識」という警句をさまざまな意味において咀嚼し、自らの人生を方向づける契機とすることができる。									
授業の概要									
なぜ「平和憲法」を持った国が戦争に向かおうとしているのか？ 日本は「先進国」なのか？ なぜ「日本の常識は世界の非常識」と言われるのか？ 本当にそうなのか？ これらの問いを念頭に、世界の現状と来歴(どのような経緯で今ようになったのか)、これからどう変動していくのか、私たちはその奔流のなかで人間として尊厳を保ちあえるのか、といったことを考えてみましょう。といっても、あまり抽象的な次元で議論するのではなく、現代の国際社会が直面する具体的問題を手掛かりに、視野を広げる作業をしていきます。なぜ「平和憲法」を持った国が戦争に向かおうとしているのか？ 日本は「先進国」なのか？ なぜ「日本の常識は世界の非常識」と言われるのか？ 本当にそうなのか？ これらの問いを念頭に、世界の現状と来歴(どのような経緯で今ようになったのか)、これからどう変動していくのか、私たちはその奔流のなかで人間として尊厳を保ちあえるのか、といったことを考えてみましょう。といっても、あまり抽象的な次元で議論するのではなく、現代の国際社会が直面する具体的問題を手掛かりに、視野を広げる作業をしていきます。									
授業計画									
下記の 6 つのテーマ・セット(関連するトピックの組み合わせ)について、①問いの提示、②手掛かりとする資料(おもに映像資料)の解説、③受講生による応答、④異なる視点の比較と検討、⑤さらなる問いへの展開を試みます。ひとつのセットに授業 2 回半をあてます。 ただし、時事的な話題と関連づけて考える作業を重視するため、あつかう順番が前後したり、題材を変更したりする場合があります。									
1~3 【第 1 セット】 移民・難民・外国人 3~5 【第 2 セット】 戦争・紛争・武器輸出 5~7 【第 3 セット】 核拡散と植民地主義 7~9 【第 4 セット】 気候危機と国際関係 9~11 【第 5 セット】 ジェンダーとカースト 11~13【第 6 セット】 ナショナリズム/ファシズム/レイシズム 14 学生コメントの傾向分析 15 補遺と総括討議									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
・ 映像視聴レポートを 3 本、出してください(目安として、4 月下旬、5 月下旬、6 月下旬に提出)。学期末になってから取り組むのではなく、早めに取り組んでください。情報館 1 階またはネット上で視聴できます。 ・ 講義後、配布資料を必ず読みなおして下さい(30 分程度)。 ・ 予習復習にネット情報を活用する際は、誰がいつ発信した情報か、そのソースとなる情報は誰がいつどこで発信したのか、注意してメモする習慣を身につけましょう。									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特定の教科書は使いません。各種資料を授業で配布します。購入必須のものはありません。購入必須のものはありません。									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)

- ・クライン [Elizabeth L. Cline](2014)『ファストファッション——クローゼットの中の憂鬱』春秋社
- ・ジグレル [Jean Ziegler](2003)『世界の半分が飢えるのはなぜ? —— ジグレル教授が わが子に語る飢餓の真実』合同出版
- ・安田 浩一(2015)『ヘイトスピーチ —「愛国者」たちの憎悪と暴力』文藝春秋(文春新書)
- ・藤巻 秀樹(2012)『「移民列島」ニッポン — 多文化共生社会に生きる』藤原書店
- ・内田樹(2014)『街場の戦争論』ミシマ社
- ・

参考 WEB サイト(サイト名・URL)

アジア太平洋資料センター (PARC) [www.parc-jp.org](http://www.parc-jp.org)  
パルシック [www.parcic.org](http://www.parcic.org)  
メコンウォッチ [www.mekongwatch.org](http://www.mekongwatch.org)  
FoE Japan [www.foejapan.org](http://www.foejapan.org)  
Greenpeace Japan [www.greenpeace.org/japan](http://www.greenpeace.org/japan)  
「環境・持続社会」研究センター (JACSES) [www.foejapan.org](http://www.foejapan.org)

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	HCH3403201	授業科目名	社会研究			開講曜日・講時	木曜 3 限		
担当教員名	山田 創平	授業区分		開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
社会専攻における学びの方法論を知る									
授業の目的・到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代の社会研究を通じて自他の文化を多角的に捉えるための基本的な知識・技能を習得できる。</li> <li>・社会研究の基本的な知識・技能を体系的に理解し、実社会と結びつけながら自らの問いを立てることができる。</li> <li>・自分で立てた問いを社会研究の基本的な知識・技能にもとづいて分析・考察できる。</li> </ul>									
授業の概要									
<p>わたしたちの身近にはさまざまな社会問題があります。社会専攻では、それらの社会問題について知り、調査や分析を行い、社会問題が起こった理由を理解し、解決方法を探ります。この「解決方法を探る」という部分が、本学人文学部における社会研究の大きな特徴です。単に知識を得て、調べて、分析し、結論を得るだけではなく、現実の社会に研究をどう応用してゆくかを考えるのです。本授業では、上記のような人文学部における社会研究の方法論、流れ、プロセスを、社会専攻の教員が実際に行っている研究を通して知り、実感し、学びます。わたしたちの身近にはさまざまな社会問題があります。社会専攻では、それらの社会問題について知り、調査や分析を行い、社会問題が起こった理由を理解し、解決方法を探ります。この「解決方法を探る」という部分が、本学人文学部における社会研究の大きな特徴です。単に知識を得て、調べて、分析し、結論を得るだけではなく、現実の社会に研究をどう応用してゆくかを考えるのです。本授業では、上記のような人文学部における社会研究の方法論、流れ、プロセスを、社会専攻の教員が実際に行っている研究を通して知り、実感し、学びます。</p>									
授業計画									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 社会研究の実際「環境研究の対象」1-1</li> <li>3. 社会研究の実際「環境研究の方法」1-2</li> <li>4. 社会研究の実際「環境研究の展開」1-3</li> <li>5. 社会研究の実際「政治研究の対象」2-1</li> <li>6. 社会研究の実際「政治研究の方法」2-2</li> <li>7. 社会研究の実際「政治研究の展開」2-3</li> <li>8. 中間総括</li> <li>9. 社会研究の実際「教育研究の対象」3-1</li> <li>10. 社会研究の実際「教育研究の方法」3-2</li> <li>11. 社会研究の実際「教育研究の展開」3-3</li> <li>12. 社会研究の実際「社会調査の対象」4-1</li> <li>13. 社会研究の実際「社会調査の方法」4-2</li> <li>14. 社会研究の実際「社会調査の展開」4-3</li> <li>15. まとめと最終課題の提示</li> </ol>									
授業外学習の指示 (予習・復習・課題等)									
毎回の授業ではコメントの記述を求めるので主体的に取り組んで頂きたい。また最終レポートに備えて、毎回の授業内容を各自復習し、まとめておくこと。									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
教科書は指定しない。									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
授業内で指示する。									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	HCH3745201	授業科目名	ジェンダーと社会			開講曜日・講時	木曜 5 限		
担当教員名	山田 創平	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
「ジェンダー」という概念の理論的背景を理解する									
授業の目的・到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダーの観点から自他の社会を多角的に捉えるための専門的な知識を習得できる。</li> <li>・ジェンダーと社会の関わりに関する専門的な知識を体系的に理解し、実社会と結びつけながら自らの問いを立てることができる。</li> <li>・自分で立てた問いをジェンダーに関する専門的な知識にもとづいて分析・考察できる。</li> </ul>									
授業の概要									
<p>講義ではまず、ジェンダーに関する一般的な了解が確認される。「ジェンダー」はしばしば「社会的な性別」とか「社会・文化的な性の様態」などと説明される。しかし、Judith Butler (ジュディス・バトラー) による Gender Trouble: Feminism and the Subversion of Identity (訳書は『ジェンダー・トラブルフェミニズムとアイデンティティの攪乱』) 以降、ジェンダーに対するこのような理解は半分正しく、半分誤りであると言わざるを得ない。ジェンダーは現在、「社会・文化」の下位概念ではなく、「社会・文化」そのものであり、むしろ「社会・文化」を構築するもの(上位概念)であると理解されつつある。端的に言えば、「社会や文化がジェンダーを作り出す」のではなく、「ジェンダーが社会や文化を組み立てる」と考えられるようになってきているということである。その意味でジェンダーに対する理解は、社会や文化を学ぼうとする時に欠かせない。そしてジェンダーが「社会や文化を組み立てる」以上、ジェンダーに対する言及は、おのずと「国家」「歴史」「資本主義」といった大きな概念やイデオロギーを含むこととなる。このようなジェンダー論の展開は、20 世紀以降の思想・哲学の進展と関わりが深い。講義ではプラトン以降の西洋哲学の歴史を概観した上で、現代思想と呼ばれる領域、とりわけ脱構築と言説理論、クイア理論について詳細に検討することとしたい。講義ではまず、ジェンダーに関する一般的な了解が確認される。「ジェンダー」はしばしば「社会的な性別」とか「社会・文化的な性の様態」などと説明される。しかし、Judith Butler (ジュディス・バトラー) による Gender Trouble: Feminism and the Subversion of Identity (訳書は『ジェンダー・トラブルフェミニズムとアイデンティティの攪乱』) 以降、ジェンダーに対するこのような理解は半分正しく、半分誤りであると言わざるを得ない。ジェンダーは現在、「社会・文化」の下位概念ではなく、「社会・文化」そのものであり、むしろ「社会・文化」を構築するもの(上位概念)であると理解されつつある。端的に言えば、「社会や文化がジェンダーを作り出す」のではなく、「ジェンダーが社会や文化を組み立てる」と考えられるようになってきているということである。その意味でジェンダーに対する理解は、社会や文化を学ぼうとする時に欠かせない。そしてジェンダーが「社会や文化を組み立てる」以上、ジェンダーに対する言及は、おのずと「国家」「歴史」「資本主義」といった大きな概念やイデオロギーを含むこととなる。このようなジェンダー論の展開は、20 世紀以降の思想・哲学の進展と関わりが深い。講義ではプラトン以降の西洋哲学の歴史を概観した上で、現代思想と呼ばれる領域、とりわけ脱構築と言説理論、クイア理論について詳細に検討することとしたい。</p>									
授業計画									
<p>講義は以下の予定で進められる。</p> <p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 「ジェンダー論」の射程</p> <p>第 3 回 「認識」という問題系</p> <p>第 4 回 古代の哲学(思想史 1)</p> <p>第 5 回 中世から近代へ(思想史 2)</p> <p>第 6 回 合理論と経験論(思想史 3)</p> <p>第 7 回 中間レポート(授業時間中にこれまでの授業内容をまとめて頂きます)</p> <p>第 8 回 ジェンダー論の基礎「男性中心主義、ロゴス、近代」(現代思想 1)</p> <p>第 9 回 ジェンダー論の基礎「記号論・社会構築主義」(現代思想 2)</p> <p>第 10 回 ジェンダー論の基礎「『ジェンダー・トラブル』を読む」(現代思想 3)</p> <p>第 11 回 「歴史」と「資本主義」(ジェンダーと社会 1)</p> <p>第 12 回 「西洋」と「東洋」(ジェンダーと社会 2)</p> <p>第 13 回 セクシュアルマイノリティの人権(ジェンダーと社会 3)</p> <p>第 14 回 これまでのまとめ</p> <p>第 15 回 最終試験</p>									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
授業内で紹介した書籍や資料については、自主学習時間を用いて目を通し、さらに重要と思われるものについては精読し、理解するようつとめること。									
評価方法・評価基準									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

履修条件・留意点及び受講生に対する要望
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
教科書は指定しない。
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
加藤秀一『知らないと恥ずかしいージェンダー入門』2006、朝日新聞社 テリー・イーグルトン(大橋洋一訳)『文学とは何か』1985、岩波書店 ヴィヴィアン・バー(田中一彦訳)『社会的構築主義への招待』1997、川島書店 さらにジュディス・バトラー、ミシェル・フーコーの諸著作を事前に通読しておくことをすすめる。
参考 WEB サイト(サイト名・URL)

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	HCH3401201	授業科目名	社会研究概論			開講曜日・講時	金曜 3 限		
担当教員名	白井 聡	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
マルクスに学ぶ資本主義社会の仕組み									
授業の目的・到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会研究の観点から自他の文化を多元的に捉えるための基本的な知識を習得できる。</li> <li>・社会一般に関する基本的な知識を体系的に理解し、実社会と結びつけながら自らの問いを立てることができる。</li> <li>・自分で立てた問いを社会一般に関する基本的な知識にもとづいて分析・考察できる。</li> </ul>									
授業の概要									
私たちの生きる近現代社会は資本主義社会である。それゆえ、「社会研究」を進めるに際して、資本主義社会とはどんな社会なのかについての基本的な認識は不可欠である。本講義では、カール・マルクスの『資本論』を中心とする資本主義分析を通して、この基本的な認識の獲得に努める。私たちの生きる近現代社会は資本主義社会である。それゆえ、「社会研究」を進めるに際して、資本主義社会とはどんな社会なのかについての基本的な認識は不可欠である。本講義では、カール・マルクスの『資本論』を中心とする資本主義分析を通して、この基本的な認識の獲得に努める。									
授業計画									
1. イントロダクション(講義の進め方、概要について) 2～14. テキストの解説 15. 理解到達度の確認、期末試験									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
テキストおよび参考文献の熟読。									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
白井聡『資本論入門——生き延びるための哲学』(仮題)、東洋経済新報社、2020年4月刊行予定									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
教場にて指示する。									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	HCH3741201	授業科目名	スポーツ社会学			開講曜日・講時	水曜 4 限		
担当教員名	栗巢 満	授業区分		開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
ー日本の「スポーツ環境」を考えるー									
授業の目的・到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツと社会の関わりからの観点から自他の社会を多角的に捉えるための専門的な知識を習得できる。</li> <li>・スポーツと社会の関わりに関する専門的な知識を体系的に理解し、実社会と結びつけながら自らの問いを立てることができる。</li> <li>・自分で立てた問いをスポーツと社会の関わりに関する専門的な知識にもとづいて分析・考察できる。</li> </ul>									
授業の概要									
<p>「環境」とは、われわれを取り巻く外界を総称する用語で、大きくは「自然環境」と「社会環境」に分けられる。しかし、生理学や生物学の領域では、身体の内部を指して「内部環境」と捉えることから、必ずしも「外界」だけを意味する用語という訳では無さそうである。「スポーツ環境」とは、一見聞き慣れない言葉のようであるが、「われわれが各種スポーツと接点を持つ際に、そこに介在する各種社会的要因」と捉えてみるとどうであろうか。</p> <p>スポーツとの接点の持ち方を考えた場合、自らが実践する場合を想定してみても、「競技として」「趣味・健康維持として」「娯楽・レジャーとして」「学校教育として」「習い事として」などが挙げられる。また第三者的立場からでは、「見る(主にテレビ放映を通して)」「観る(主に現場観戦を通して)」「視る(主にメディア報道を通して)」と、近年特に多種多様の傾向がみられる。</p> <p>この講義では、世界的な規模で展開されている各種スポーツと、われわれの日常とは、どのような関係性があるのかについて考え、そこに介在する「社会的要因」に注目し、それらを批判的に捉えていこうとするものである。「環境」とは、われわれを取り巻く外界を総称する用語で、大きくは「自然環境」と「社会環境」に分けられる。しかし、生理学や生物学の領域では、身体の内部を指して「内部環境」と捉えることから、必ずしも「外界」だけを意味する用語という訳では無さそうである。「スポーツ環境」とは、一見聞き慣れない言葉のようであるが、「われわれが各種スポーツと接点を持つ際に、そこに介在する各種社会的要因」と捉えてみるとどうであろうか。</p> <p>スポーツとの接点の持ち方を考えた場合、自らが実践する場合を想定してみても、「競技として」「趣味・健康維持として」「娯楽・レジャーとして」「学校教育として」「習い事として」などが挙げられる。また第三者的立場からでは、「見る(主にテレビ放映を通して)」「観る(主に現場観戦を通して)」「視る(主にメディア報道を通して)」と、近年特に多種多様の傾向がみられる。</p> <p>この講義では、世界的な規模で展開されている各種スポーツと、われわれの日常とは、どのような関係性があるのかについて考え、そこに介在する「社会的要因」に注目し、それらを批判的に捉えていこうとするものである。</p>									
授業計画									
<p>詳細については初回の授業で説明するが、毎時間ごとに「テーマ」を設定し、そのテーマに関する歴史確認を基本とし、時代や社会、我々の生活との関係性について理解を深めていこうと考えている。また、講義と関連する出来事が起こった場合には、臨時的にそれを取り上げることもある(計画はあくまでも予定)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回: ガイダンス</li> <li>・第2回: 「sports」と「スポーツ」</li> <li>・第3回: 「明治国家」とスポーツ(1)</li> <li>・第4回: 「明治国家」とスポーツ(2)</li> <li>・第5回: 「近代天皇制」とスポーツ(1)</li> <li>・第6回: 「近代天皇制」とスポーツ(2)</li> <li>・第7回: 「体罰問題」を考える(1)</li> <li>・第8回: 「体罰問題」を考える(2)</li> <li>・第9回: 「学校体育」としてのスポーツ</li> <li>・第10回: 「クラブ活動」とスポーツ</li> <li>・第11回: スポーツと「指導者(1)」</li> <li>・第12回: スポーツと「指導者(2)」</li> <li>・第13回: スポーツと「メディア(1)」</li> <li>・第14回: スポーツと「メディア(2)」</li> <li>・第15回: まとめ</li> </ul>									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の予習として、スポーツに関するメディア報道に注目しておくこと</li> <li>・その出来事について、自らの考えを整理しておくこと</li> </ul>									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
・特になし
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
・必要に応じて紹介する
参考 WEB サイト(サイト名・URL)

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	HCH3711201	授業科目名	社会階層論			開講曜日・講時	水曜 5 限		
担当教員名	住友 剛	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
「社会階層」の視点でとらえる子ども・若者の教育									
授業の目的・到達目標									
(1) 貧困・格差等に焦点を当てつつ社会階層の観点から自他の社会を多角的に捉えるための専門的な知識を習得できる。 (2) 社会階層に関する専門的な知識を体系的に理解し、実社会と結びつけながら自らの問いを立てることができる。 (3) 自分で立てた問いを社会階層に関する専門的な知識にもとづいて分析・考察できる。									
授業の概要									
<p>「社会階層」とは、『現代社会学事典』(弘文堂)によると、「社会的資源が不平等に配分されている社会構造状態」をさします。近年、私たちはマスメディアなどで「子どもの貧困」や、「若者の非正規雇用」など、「格差社会」に関する記事・ニュースなどに触れる機会が増えました。こうした「格差社会」に関する諸課題、特に子どもや若者の直面する諸課題は、まさに経済的・文化的あるいは人々のつながりの面などで、「社会的資源が不平等に配分されている」ことを物語るものです。この科目では、主に子ども・若者の学校教育における諸課題や、学校卒業後の進路形成(進学・就職など)に関する諸課題などを主に取り上げながら、貧困、社会的排除といった「格差社会」に現れる人々の諸課題について考察・検討を行います。と同時に、その「格差」を是正するためのさまざまな取り組みとその諸課題(理念的、制度・政策論的、社会運動論的、現場実践論的等々)についても、併せてこの科目のなかで考察・検討していきます。「社会階層」とは、『現代社会学事典』(弘文堂)によると、「社会的資源が不平等に配分されている社会構造状態」をさします。近年、私たちはマスメディアなどで「子どもの貧困」や、「若者の非正規雇用」など、「格差社会」に関する記事・ニュースなどに触れる機会が増えました。こうした「格差社会」に関する諸課題、特に子どもや若者の直面する諸課題は、まさに経済的・文化的あるいは人々のつながりの面などで、「社会的資源が不平等に配分されている」ことを物語るものです。この科目では、主に子ども・若者の学校教育における諸課題や、学校卒業後の進路形成(進学・就職など)に関する諸課題などを主に取り上げながら、貧困、社会的排除といった「格差社会」に現れる人々の諸課題について考察・検討を行います。と同時に、その「格差」を是正するためのさまざまな取り組みとその諸課題(理念的、制度・政策論的、社会運動論的、現場実践論的等々)についても、併せてこの科目のなかで考察・検討していきます。</p>									
授業計画									
<p>以下は現時点での授業計画です。実際には受講生の様子などをふまえて、下記の計画を修正する場合があります。なお、毎回授業の冒頭で、前回授業のコメントカードの内容をふまえた「ふりかえり」を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業計画の説明など</li> <li>2. そもそも「社会階層」とはなんなのか？</li> <li>3. 「社会階層」を理解する上での重要概念「貧困」と「社会的排除」を中心に</li> <li>4. 具体的な例を手がかりに(1) ひとり親家庭の暮らしと「格差」問題</li> <li>5. 具体的な例を手がかりに(2) 若年者の非正規就労と「格差」問題</li> <li>6. 敗戦後日本社会における子ども・若者の「貧困」問題(1) 敗戦直後～1980年代まで</li> <li>7. 敗戦後日本社会における子ども・若者の「貧困」問題(2) 1990年代以降</li> <li>8. 子どもの教育課題と社会階層(1) 保護者の教育費負担の問題を中心に</li> <li>9. 子どもの教育課題と社会階層(2) 家庭間の経済的格差と「学力」形成の諸問題</li> <li>10. 子どもの教育課題と社会階層(3) 学校生活への適応・不適応</li> <li>11. 「格差」是正のための取り組み(1) 保護者の教育費負担軽減をどうすすめるか</li> <li>12. 「格差」是正のための取り組み(2) 生活保護や就学援助制度等の適用をめぐって</li> <li>13. 「格差」是正のための取り組み(3) 「ソーシャルワーク」の視点に立ったとくみ</li> <li>14. 「格差」是正のための取り組み(4) 非正規雇用で働く人々の権利を守るために</li> <li>15. 今学期授業のまとめ。</li> </ol>									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
この科目では毎回の授業に加えて、教室外での予習・復習が週4時間必要です。毎回の授業終了時に予習・復習課題を提示するので、それに各自、取り組んでください。なお、初回授業で予習・復習課題のすすめ方について詳しく説明します。									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
使用しない。
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
松本伊智朗ほか『子どもの貧困ハンドブック』かもがわ出版、2016 年 中村文夫『子どもの貧困と公教育』明石書店、2016 年 鷹咲子『給食費未納 子どもの貧困と食生活格差』光文社新書、2016 年 耳塚寛明編『教育格差の社会学』有斐閣、2014 年 岩田正美『社会的排除』有斐閣、2008 年 橋本健二『「格差」の戦後史』河出書房新社、2009 年 生田武志『釜ヶ崎から—貧困と野宿の日本—』ちくま文庫、2016 年 林明子『生活保護世帯の子どものライフストーリー』勁草書房、2016 年 稲葉剛『生活保護から
参考 WEB サイト(サイト名・URL)
特になし。

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	HGH1045101	授業科目名	政治学			開講曜日・講時	金曜 1 限		
担当教員名	白井 聡	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
現代社会の基礎的力学。									
授業の目的・到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代政治を構成する諸要素を理解する。</li> <li>・上記理解に基づき、日々起こる政治的出来事について、学術的な見方ができるようになる。</li> </ul>									
授業の概要									
本講義では、政治を見る際に必要な基礎的知識を体系的に獲得することにより、市民・公的な成熟を果たしてもらうことを大目標とする。政治が語られる際には、さまざまな「イデオロギー」が同時に語られるが、それらの意味を歴史的起源・形成・変化を踏まえて理解できるようにする。必要に応じて、時事的な話題も取り上げながら講義を進める。本講義では、政治を見る際に必要な基礎的知識を体系的に獲得することにより、市民・公的な成熟を果たしてもらうことを大目標とする。政治が語られる際には、さまざまな「イデオロギー」が同時に語られるが、それらの意味を歴史的起源・形成・変化を踏まえて理解できるようにする。必要に応じて、時事的な話題も取り上げながら講義を進める。									
授業計画									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション(本講義のテーマと進め方)</li> <li>2. 近代資本主義の発展と国家①……政教分離と中性国家</li> <li>3. 近代資本主義の発展と国家②……古典的自由主義</li> <li>4. 近代資本主義の発展と国家③……ナショナリズム、国民化とデモクラシー</li> <li>5. 近代資本主義の発展と国家④……近代国家と規律訓練権力、動員</li> <li>6. 近代資本主義の発展と国家⑤……帝国主義</li> <li>7. 近代資本主義の発展と国家⑥……ファシズム</li> <li>8. 近代資本主義の発展と国家⑦……フォーディズム</li> <li>9. 近代資本主義の発展と国家⑧……フォーディズムと文化・階級</li> <li>10. 近代国家の溶解①……新自由主義</li> <li>11. 近代国家の溶解②……新しい階級社会1</li> <li>12. 近代国家の溶解③……新しい階級社会2</li> <li>13. 近代国家の溶解④……ナショナリズムの再編1</li> <li>14. 近代国家の溶解⑤……ナショナリズムの再編2</li> <li>15. 理解到達度の確認・期末試験</li> </ol>									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
授業内容を復習すること。									
社会問題・社会的話題に対してアンテナを張ること。									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
なし。									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
教場にて指示する。									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									
時事問題等に関する講師の折々の見解は以下のサイトに公表されるので参照のこと。									
<a href="https://www.facebook.com/satoshi.shirai.18">https://www.facebook.com/satoshi.shirai.18</a>									
<a href="https://news.yahoo.co.jp/byline/shiraisatoshi/">https://news.yahoo.co.jp/byline/shiraisatoshi/</a>									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	HCH3405201	授業科目名	現代社会論			開講曜日・講時	金曜 3 限		
担当教員名	細川 弘明	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
セイカ流 社会のとらえかた									
授業の目的・到達目標									
<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の観点から自他の文化を多角的に捉えるための基礎知識を習得する。</li> <li>・実社会の課題や動向と結びつけながら自らの問いを立てる。</li> <li>・自分で立てた問いを現代社会に関する専門的な知識や概念にもとづいて分析・考察できるようになる。</li> </ul> <p><b>【当面の目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 世の中、社会、世界への関心を深める</li> <li>2) ひとつの事象を複数の異なる視点から読み解く楽しさと大切さを心に刻む</li> <li>3) 自分なりに現代社会と向き合う視座を獲得する</li> </ol>									
授業の概要									
<p>7つの大きなテーマについて、社会専攻の教員全員がリレー講義するかたちで、現代社会を読み解いていきます。1つのテーマについて2名の教員が異なった切り口で講義します。各回講義後のトークセッションでは、コーディネータの司会で、講師と受講生がともにその回のテーマをめぐる議論します(質疑応答を含む)。</p> <p>講義とトークセッションをふまえ、受講生はその回のショートレポートを作成し、授業時間の最後に提出します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 講義 40 分</li> <li>2) トークセッション(教員+受講生+司会) 30 分</li> <li>3) ショートレポート作成 20 分</li> </ol> <p>7つの大きなテーマについて、社会専攻の教員全員がリレー講義するかたちで、現代社会を読み解いていきます。1つのテーマについて 2 名の教員が異なった切り口で講義します。各回講義後のトークセッションでは、コーディネータの司会で、講師と受講生がともにその回のテーマをめぐる議論します(質疑応答を含む)。</p> <p>講義とトークセッションをふまえ、受講生はその回のショートレポートを作成し、授業時間の最後に提出します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 講義 40 分</li> <li>2) トークセッション(教員+受講生+司会) 30 分</li> <li>3) ショートレポート作成 20 分</li> </ol>									
授業計画									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 現代の戦争(その1)</li> <li>2 現代の戦争(その2)</li> <li>3 お金と幸福(その1)</li> <li>4 お金と幸福(その2)</li> <li>5 民主主義とファシズム(その1)</li> <li>6 民主主義とファシズム(その2)</li> <li>7 ジェンダーとセクシュアリティ(その1)</li> <li>8 ジェンダーとセクシュアリティ(その2)</li> <li>9 気候危機と現代社会(その1)</li> <li>10 気候危機と現代社会(その2)</li> <li>11 移民/難民/多民社会(その1)</li> <li>12 移民/難民/多民社会(その2)</li> <li>13 AI技術と未来(その1)</li> <li>14 AI技術と未来(その2)</li> <li>15 まとめと振り返り</li> </ol> <p>(現実社会の動向に応じて、テーマが若干組み替えになる可能性もあります。また、講義の順番が変わる場合があります。)</p>									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 各テーマに関連するキーワードを事前に提示しますので、予習を励行して下さい。</li> <li>② 毎回の受講後、特に気になったことについて、自分なりに調べを進め、関連情報、自分の考えや疑問などを書きためておき、それを期末レポートに活かして下さい。(授業で扱った諸テーマから2つを選び、1テーマについて1本ずつ、計2本の期末レポートを作成してもらいます。)</li> </ol>									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
購入必須のものはありません。
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
科目サーバー(下記)に、各回講義での配布資料や映写資料のデータを収録するほか、各テーマの参考資料を随時アップしていきます(ダウンロード可)。各自の興味関心に応じて、読み進めて下さい。
参考 WEB サイト(サイト名・URL)
<a href="http://j.mp/gensha2019">http://j.mp/gensha2019</a> (2020 年 9 月下旬に開設)

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	HCH3715201	授業科目名	南北問題			開講曜日・講時	金曜 4 限		
担当教員名	細川 弘明	授業区分		開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
世界の貧しさと豊かさと私たち									
授業の目的・到達目標									
受講者が次の 3 つのちからを伸ばすこと: (1) 自分の日々の生活と「南北問題」に深いつながりがあることを具体的に理解し、それを友達に説明することができる。 (2) さまざまなニュースの背景を「南北問題」の文脈で読み解くことができる。 (3) 自分自身が「南北問題」の当事者であることを認識し、問題解決にむけた実践にみずから関わっていく糸口を探ることができる。									
授業の概要									
なぜ「豊かな国」と「貧しい国」があるの？ なぜ、「経済援助」をしているのに貧困は無くならない(どころか悪化していく)の？ 日本は「豊かな国」なの？ 日本はこれから(もっと)「貧しく」なるの？ —— 私たちが直面している「南北問題」(＝先進国と途上国の経済格差と、それに連動した環境・食と農・健康・人権・貧困・社会の分断・排除・難民・国際関係・貿易摩擦・戦争・テロなど諸問題)の現状と原因を分析し、解決のために何ができるかを考えます。日本国内の「貧困と格差拡大」についてもグローバルな観点から論じます。なぜ「豊かな国」と「貧しい国」があるの？ なぜ、「経済援助」をしているのに貧困は無くならない(どころか悪化していく)の？ 日本は「豊かな国」なの？ 日本はこれから(もっと)「貧しく」なるの？ —— 私たちが直面している「南北問題」(＝先進国と途上国の経済格差と、それに連動した環境・食と農・健康・人権・貧困・社会の分断・排除・難民・国際関係・貿易摩擦・戦争・テロなど諸問題)の現状と原因を分析し、解決のために何ができるかを考えます。日本国内の「貧困と格差拡大」についてもグローバルな観点から論じます。									
授業計画									
おおむね下記の事項について解説し、受講生自身が考えるための素材を提供します。ただし、時事的な話題と関連づけて解説することを重視するため、この通りの順番で授業を進めることにはなりません。また、ドキュメンタリー映像を多用し、それに対する学生からのコメントに縦横に応答していくことが授業を進める軸となります。 学期を通じて取り扱うトピック(順不同、組み合わせで解説):									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・植民地支配の歴史と後遺症(南北問題の起源と現在)</li> <li>・なぜ途上国で戦争がやまないのか(戦争で得をしているのは誰か)</li> <li>・開発援助(ODA など)はなぜ犠牲者を生み出すのか</li> <li>・南北問題としての「気候危機」</li> <li>・債務ブーメラン —— 南北問題は先進国をも破壊する</li> <li>・移民(労働力国際移動、広域国家連合、人口政策)</li> <li>・難民(環境、武力紛争、災害、政治的迫害)</li> <li>・多文化共生、多民社会、ダイバーシティ、包摂と排除</li> <li>・持続可能開発目標(SDGs)とグリーンウォッシュ</li> <li>・「貿易自由化」「多国籍企業」とグローバル化</li> <li>・現代奴隷制度(人身売買、児童労働、債務労働制など)</li> <li>・日本国内の“地域格差”としての原発問題</li> <li>・知的財産権、生命特許、生物多様性とグローバル経済</li> <li>・命の格差 —— 医薬特許、ジェネリック薬品、感染症対策</li> <li>・第 3 世界と「第 4 世界」— 少数民族・先住民族の地位</li> <li>・資源エネルギー開発と南北問題</li> <li>・有害廃棄物の越境移動、偽装リサイクル</li> <li>・NGO/市民活動の可能性、NPO バンクの役割</li> <li>・連帯経済の可能性(フェアトレード、マイクロファイナンス、地域通貨、NPO バンク、女性銀行、イスラム金融、協同組合、ワーコレ、クラウドファンディングなど)</li> <li>・社会的責任投資(CSR、倫理的投資、BDS、フェアファイナンス、赤道原則なども含めて)</li> </ul>									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書レポートを 3 本、出してください(目安として、10 月下旬、11 月下旬、12 月下旬に提出)。学期末になってから取り組むのではなく、早めに取り組んでください。</li> <li>・ まず、課題図書リスト(初回授業で配布します)をよく吟味し、情報館で実物を斜め読みしたり、適宜ウェブ検索するなどして、自分が取り組む本を選ぶようにして下さい。</li> <li>・ 講義後、配布資料を必ず読みなおして下さい(30 分程度)。</li> <li>・ 予習復習にネット情報を活用する際は、誰がいつ発信した情報か、そのソースとなる情報は誰がいつどこで発信したのか、注意してメモする習慣を身につけましょう。</li> </ul>									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

評価方法・評価基準
履修条件・留意点及び受講生に対する要望
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く) 特定の教科書は用いません。各種資料を授業で配布します。購入必須のものはありません。
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料) ・ ザックス(Wolfgang Sachs)、ザンタリウス(Tilman Santarius)(編) 2013『フェアな未来へ —— 誰もが予想しながら誰も自分に責任があるとは考えない問題に私たちはどう向きあっていくべきか』新評論 ・ ベイルズ(Kevin Bales)2002『グローバル経済と現代奴隷制』凱風社 ・ シヴァ(Vandana Shiva)2006『食糧テロリズム —— 多国籍企業はいかにして第三世界を飢えさせているか』浦本昌紀(監訳)、竹内誠・金井塚 務(訳)、明石書店 ・ オフ(Ca
参考 WEB サイト(サイト名・URL) アジア太平洋資料センター(PARC) <a href="http://www.parc-jp.org">www.parc-jp.org</a> パルシク <a href="http://www.parcic.org">www.parcic.org</a> メコンウォッチ <a href="http://www.mekongwatch.org">www.mekongwatch.org</a> FoE Japan <a href="http://www.foejapan.org">www.foejapan.org</a> 「環境・持続社会」研究センター(JACSES) <a href="http://www.jacsces.org">www.jacsces.org</a>